

第2回モンゴルビジネス協議会 (BCM) 年次サミット

ERINA 調査研究部主任研究員
エンクバヤル・シャクダル

2017年6月19日に第2回モンゴルビジネス協議会 (BCM) 年次サミットが、ウランバートル市 Ikh Tenger Complex で開催された。BCM は2007年に設立されたモンゴルの地方及び国際的なビジネス・投資を代表する主要な非政治団体である。現在、250団体から構成されている。第1回目は、2016年4月21日にウランバートル市で開催された。

今回の年次サミットのテーマは、「アジア内の地域連携」であった。2015年7月、モンゴル、中国、ロシアの大統領は、中モロ経済回廊発展に向けた合意書に署名をし、相互接続性の強化による3カ国間の経済協力推進を目指している。相互接続性の課題は、モンゴルのステップロード、ロシアのユーラシア経済連合、中国のシルクロード経済ベルトなど、各国のイニシアチブによって進められている。加えて、中国の「一带一路」イニシアチブがより結びつきの強い成長の機会を生み出している。そのため、今年の年次サミットでは、これらのイニシアチブとビジネスリーダーたちの戦略との連携を促す一方で、豊富なエネルギー・鉱物資源をもつモンゴルは、域内の投資先としての存続を目標とした。モンゴルは、南ゴビにあるオユトルゴイにおける世界規模の銅・金の採掘事業の第二段階への44億ドルの事業費を主要20銀行との間で確保し、建設は2016年に始まった。また、モンゴルでは風力発電も進んでいる。すでに、ゼネラルエレクトリック、ソフトバンク、シャープは、モンゴルの再生可能エネルギー源の利用に投資を始めている。

モンゴルの J. エルデネバト首相は、開会挨拶の中で、道路、輸送、エネルギー、通信、採掘、製造、観光インフラの改善を目的として、政府が最近「開発道路」という新しい事業を承認したことを紹介し、海外、とりわけ隣接する国々とのインフラ連結性を確保することを述べた。政府は、

連結性の向上による貿易コスト引き下げと、対外貿易の推進を期待している。

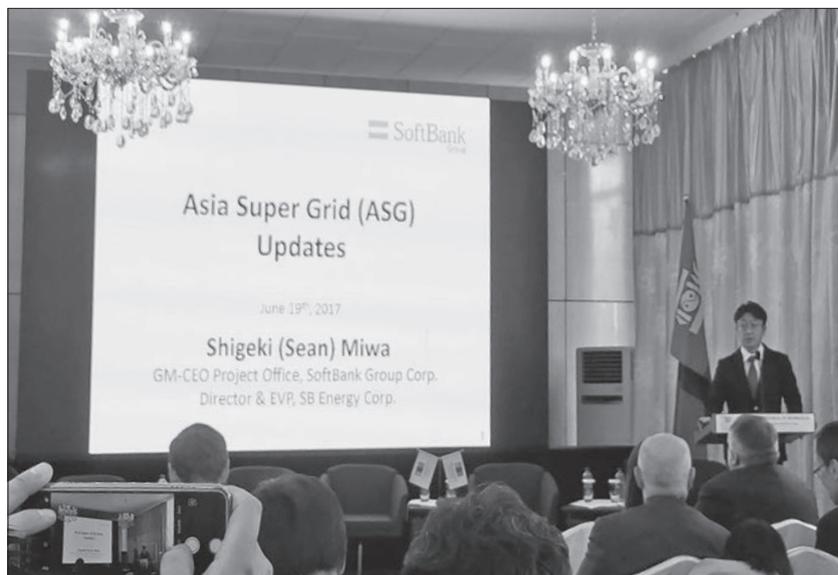
年次サミットでは、4つのパネルディスカッションが行われ、ソフトバンクグループ CEO プロジェクト室長兼 SB エナジー 副社長の三輪茂基氏による基調講演「北東アジア電力システム相互接続性」では、ソフトバンクが推進する北東アジアに国際的な電力網を作る意欲的な事業「アジ

アスーパーグリッド」についての最新情報が話された。南ゴビ (ツォグツェツイ) では 50MW の風力発電所の建設が進められ、2017年末には配管網に電力が供給できるという。また、ソフトバンクと韓国エネルギー管理会社 (KEMCO) が、モンゴルの再生可能エネルギーの生産量を共同開発することに合意したことを発表した。

パネリストは、モンゴル、中国、日本、



開会挨拶をする J. エルデネバト首相 (筆者撮影)



アジアスーパーグリッドについて説明するソフトバンクの三輪茂基氏 (筆者撮影)

韓国、ロシアの官僚、ADB 代表者、モンゴルへの国際投資家であった。パネルディスカッションのテーマは、以下のとおりである。

- 地域経済統合: 経済的必要性から政策の現実まで

- 北東アジア電力システムの相互連結
- アジアのインフラ投資ギャップの克服
- 現場の根拠: 競争力のある優位性としての環境、社会、ガバナンス (ESG)

この年次サミットは、各地域で活動する

政府・ビジネスリーダーの話を聞く良い機会であったが、パネリストたちの討論に視覚的なプレゼンテーションが加われば、さらに貴重で興味深い話が聞けたと思われる。